

2023年度 中学部入試問題について

国府台女子学院中学部

## < 国 語 >

### 1. 2022年度の問題分析

#### ①推薦入試

平均点は41.5点。試験内容は、例年と同様に、知識問題と1000字程度の短めの文章読解を含む小問集合でしたが、2022年度の問題は全体的に難化し、平均点が非常に低くなりました。知識問題(問十六まで)に関しては、従来の問題傾向にしたがった漢字(熟語)、言葉の意味の問題でも正答率が低く、問十三の「もの」と「こと」の使い分けについて、例文をもとにして考える問題の出題ではいっそう正答率が下がった印象です。問十三では、不注意ミスによるのか設問の指示である「具体性」という言葉を用いずに説明している答案が多かっただけでなく、そもそも「具体性」という意味の理解が難しかったものと推測されます。一方、問十五では、昨今話題の詩人、最果夕ヒ氏の詩の一部を出題しました。現代社会に生きる人間の様相を考えさせる詩でしたが、小学六年生には少々難解に感じられたようです。長文読解問題は、利他的な行為に関する考察を述べた文章の一節でした。「利他」という語になじみの薄い受験生も多いのか、この読解問題についても小学生には高度な内容だったと思われ、到達率は42.5%でした。特に長文問題の問十一や十二のように本文全体の概要をつかんでおかなければ正答が難しい問題で苦戦した様子が見られました。また漢字問題も正答率が低く、普段から難しい文章に接していなければ出会うことのない、問一の①「セイヒン」、③「ヨゴ」、読解問題中の(a)「ハイジ」などはとりわけ厳しい結果になっていたように感じられました。

#### ②第1回入試

平均点は59.9点。問題の構成は例年どおりで、推薦入試と同様の小問集合を40点、長文問題(文学的文章、今回は小説)を60点として出題しました。小問集合の問題は基本的なものばかりで、到達率は70.7%でした。問三に関しては複数の正解があり、柔軟に採点いたしました。「やすやすと」という語を用いる短文作成問題に関しても、例年よりも親しみのある言葉だったようで十分な出来映えだったと思います。長文問題(小説)は、コロナ禍にある少年少女らがそれぞれの家庭や互いの関係性を通じて成長していく物語。厳しい社会情勢であるからこそ多様性を尊重し、自己の価値基準ではからず、他を思いやることの大切さを考えさせる文章でした。今回の入試では、この小説の文字数が10000字を超え、集中力を切らさずに最後まで読み進めることが難しかった受験生も多かったことと思います。文字数が多い分、問題は解答の根拠が傍線部から比較的近くにあるものを多く出題したものの、選択肢は本文どおりの語句を参照するものが少なく、正答にたどりつくには内容を自身の中で昇華させる必要があったことでしょう。特にその傾向が強い問十、十一などの正答率が低かったように感じられました。長文の到達率は52.7%でしたが、想定以上の分量にも戸惑うことなく、落ち着いて解答できた受験生の基礎学力と胆力には感心するばかりです。今後も文章量の多い教材で練習を積み、時間配分を考えて、落ち着いて解答する習慣が身につくように努力してほしいと思います。

#### ③第2回入試

平均点は55.1点。問題の構成、配点は第一回と同様です。小問集合は本校独自の出題形式であるためか、準備の不十分な答案も見受けられ、到達率は46.0%でした。問二に関しては複数の正解があり、柔軟に採点いたしました。長文読解問題は、古来より受け継がれてきた日本人の感性や生き方の素晴らしさを述べた文章。日本人には仏教を礎とする無常観が根付いており、それを様々な例を挙げた複数の文章から読み取る問題でした。随筆的な傾向のある評論文で難解な言葉も多かったですが、到達率は61.2%とまずまず高く、多くの情報を整理して読むことができていたように思います。ただし、問十四のような全体のテーマを抽象化させて考える問題は正答率が低く、深いところまで読み取ってもう一度、自分の頭の中で組み立て直す訓練は必要のように思いました。こちらも第一回同様、語彙力を高めながら、なるべく文章量の多いものを時間内で整理しながら読む練習が必要となります。

### 2 2023年度入試の傾向と対策(変更点あり)

#### ①全体の構成

推薦入試(40分、100点)において、従来は小問集合のみ(1000字程度の短い長文読解問題を含む)という形式でしたが、これを変更し、第1回・第2回入試(50分、100点)と同様、小問集合と長文読解問題1題という形式に変更します。推薦入試の長文読解の文字数は1000字程度の短めのものとしていましたが、今回は字数の規定は設けないことといたします。またこれに伴い、推薦入試の小問集合における配点もこれまでより少ないものとなります。なお第1回・第2回入試の形式、内容、配点は例年どおりで変更はありません。

#### ②小問集合について

漢字・熟語、ことわざ・慣用句、新聞等でよく用いられる語句(外来語も含めて)の意味選びなどの知識問題や、正しい言葉の使い方、文法、短文作りなど語句に関する問題が中心です。また、「ヒントに従って考える力」をみる問題や、感性・想像力をはかる問題も出題したいと考えています。近年は漢字・熟語などの「基本中の基本」をマスターしていない受験生が目立つので、難問ばかり解くのではなく、まずは漢字力(意味を含めて)を鍛えてください。

#### ③長文問題について

全ての入試において1題だけの出題ですので、問題文自体は長めになると思います(推薦入試の場合は解答時間が少ないこともあり、平均的な分量になるかと思えます)。文章のジャンルとしては、説明的文章(評論など)か文学的文章(小説や随筆など)かのどちらかを出題します。

長文問題は、「要するに何がどうだと言っているのか」「だれがどんなことをして、どう思っているのか」という骨格を頭の中で確認しながら読むことが大切です。大筋をきちんとつかめれば、とんでもない間違いはしません。また選択肢の問題で正答率をあげるには、解答の骨格となる内容を本文中から客観的に探し、それを別の言葉に置き換えて説明する訓練をしておくといいでしょう。記述問題に関しても、同様の訓練が必要になりますが、問いが求めている内容や答え方に合わせるために、その中心語句をどう変えなければならないか、あるいはそのままよりかなどよく考えましょう。例年、主語と述語がきちんと対応していないもの、要点は充分に捉えていても文末の答え方が不適切である記述解答を多く見かけます。問題文をよく読まず、指示した事柄に対応していないものや、「あてはまる」内容の選択肢を答えるのか、「あてはまらない」内容の選択肢を答えるのか、そのような初歩的なミスと思われる答案も多いので、十分に注意してください。

また2021年度の第二回入試(本文の内容をグラフ化して示す問題)で見られたように、文章以外の形式で解答を求める問題もあるかもしれません。常に柔軟な意識をもって物事に接していく必要があります。好奇心を持ち、語彙を豊富にして自在に思考を廻らすことができると良いですね。

なお、小問集合、長文問題とも、出題する漢字は小学校で学習するものを原則としますが、よく日常で用いられるレベルのものについては、小学校で学習していないものを出題する場合があります。また、本文中の「ふりがな」についても、ある程度の読書習慣があれば読めるような常識的なものは、小学校の学習範囲以外でもつけない場合があります。

国語力を高めるのは、やはり読書習慣です。語彙を増やすとともに、他者理解の姿勢を身につけるためにも良質な文章をたくさん読むよう心がけてください。

# 2022年度入試 国語 問題別 正答率

- ①…正答率80%以上
- ②…正答率80～50%
- ③…正答率50～20%
- ④…正答率20%以下
- ⑤…合否の正答率の差が大きい問題

※設問ごとの配点異なるため、平均点と正答率は異なります。

## 推薦入試

設問		①	②	③	④	⑤
問一	①				○	
	②			○		◎
	③				○	
	④		○			
	⑤		○			◎
	⑥		○			
問二			○			
問三				○		
問四			○			◎
問五				○		
問六			○			
問七				○		◎
問八				○		
問九				○		
問十				○		
問十一				○		
問十二			○			
問十三	1			○		
	2			○		
問十四					○	
問十五	1			○		
	2			○		
	3		○			
	4			○		
問十六				○		◎
問十七	1	a			○	
		b	○			
		c		○		
	2		○			
	3		○			
	4		○			
	5		○			
	6				○	
	7			○		
	8		○			
	9			○		
	10			○		
11				○		
12				○		

総合	43.2%
----	-------

## 第1回入試

設問		①	②	③	④	⑤	
一	問一	①	○				
		②	○				
		③	○				
		④	○				
		⑤	○				
	問二			○			
	問三	A		○			
		B			○		
	問四		○				
	問五			○			
	問六		○				
	問七				○		
	問八					○	
	問九			○			◎
	二	問一		○			
		問二	イ		○		◎
			ウ		○		
問三			○				
問四				○			
問五				○	◎		
問六			○				
問七				○			
問八				○			
問九				○			
問十				○			
問十一				○			
問十二				○			
問十三	1		○		◎		
	2		○		◎		
	問十四			○			
	問十五			○			
	問十六			○			
問十七			○				

大問別	一	69.7%
	二	53.2%
総合		60.2%

## 第2回入試

設問		①	②	③	④	⑤
一	問一	①			○	◎
		②		○		
		③		○		
		④			○	
		⑤	○			
	問二	A			○	
		B		○		
	問三				○	
	問四			○		
	問五				○	◎
	問六				○	
	問七			○		
	問八			○		
	問九					○
二	問一				○	
	問二		○			
	問三			○		
	問四			○		
	問五			○		
	問六			○		
	問七			○		
	問八			○		
	問九				○	
	問十			○		◎
	問十一		○			
	問十二			○		
	問十三	ア		○		◎
		イ	○			
ウ			○			
エ			○		◎	
問十四				○		

大問別	一	46.1%
	二	61.7%
総合		54.9%

## < 算 数 >

### 1. 2022年度の問題分析

#### ①推薦入試

出題内容は大問5題の構成で、整数・小数・分数の四則混合計算問題、短い文章形式の計算穴埋め問題、解法の経過を考えさせる問題、図形を利用した計算問題、グラフから数値を読み取る問題に分かれています。最初の四則混合計算問題は正答率が他の問題よりも高く、ほとんどの受験生が得点しています。それ以降の問題では、特殊算を出題していますので、代表的な問題を繰り返し解き、理解度を高めておくことが必要です。

平均点は54.6点。問1の四則混合計算問題の正答率は合格者が84%、不合格者が54%と大きな差ができました。問2の特殊算を使った一行問題は、典型的な特殊算を出題しました。(2)～(5)はよくできていましたが、(6)の正答率が低くなりました。(6)は割合とつるかめ算の融合問題ですが、品物の値段における割合の問題に苦手意識がある受験生が多かったようです。問3(1)の計算経過の穴埋め問題は、過不足算の問題を出題しました。穴埋めですが、正答率があまり高くはありませんでした。過不足算は解けるけれども、意味をきちんと理解せず使用していたのかもしれませんが。(2)の記述問題には仕事算の問題を出題しましたが、途中式など全般的によく書けていたと思います。問4の図形問題は(2)、(3)の正答率が低く、特に、(3)の不合格者の正答率が大変低くなりました。問5のグラフ問題は、合格者と不合格者の正答率の差が非常に大きくなりました。(1)については基本的な問題で、解くことは容易だったかと思います。合格者の正答率が81%、不合格者の正答率が37%と大きな差がありますが、時間が足りなく取り組むことができなかつたことが原因かと思います。

#### ②第1回入試

出題形式は推薦入試とほぼ同じです。

平均点は68.7点。問1の四則混合計算問題は高い正答率でした。問2の特殊算を使った一行問題については(1)(6)の問題について正答率があまり良くありませんでした。(6)については、時間と速さの比が逆比になることにきちんと気づけるのがポイントになったと思います。問3の経過を見る問題については、補充問題、記述問題ともに大変良くできていたと思います。問4では、(2)の問題の正答率が低くなりました。直角三角形の性質を利用し、おうぎ形の半径を求めることができるのですが、なかなか気づかなかつたかと思います。(3)の問題においては、合格者と不合格者の正答率に差ができました。展開図を組み立てることでのどのような立体ができるかが予想でき、また六角形の図形が底面の柱体であることに気づければ体積を求めやすかつたと思います。問5のグラフ問題は、合格者と不合格者の差が大きくなりました。問題文やグラフから状況を正しく理解し、各問を解くのにグラフのどこを読み取ればよいのか気づきづらかつたのかもしれませんが。(2)については、不合格者の正答率が低かつたのですが、状況を踏まえ、グラフ全体を見てもらえれば簡単に求められたと思います。

#### ③第2回入試

出題形式は推薦入試とほぼ同じです。

第2回入試は平均点が60.6点。問2(6)の問題の正答率が大変低くなりました。3人の動きをきちんと把握し、そこから立式をしていくのが少し難しく感じたかもしれません。問3(1)はオの正答率が低くなりました。記述問題はとても良くできていたと思います。問4の(2)は合格者と不合格者の正答率の差が大きくなりました。問5のグラフの問題については、状況を理解しづらいつとも時間に足りず手を付けられなかつた受験生が多かつたようです。

### 2. 2023年度入試の傾向と対策

2023年度入試については、昨年度と大きな変更はありません。出題については、すべての試験において同じ形式で行います。最初に四則混合計算を数問出題し、次に文章形式の計算穴埋め問題を出題します。解法の経過を見る問題については、2問用意し、1問は穴埋め問題、1問は計算過程を書かせる記述問題とします。図形、グラフといった問題も例年通り出題する予定です。対策としては、第一に基本的な計算力をつけることです。四則混合計算は確実に得点できるようにしてください。また、中学受験に必要な様々な特殊算について理解を深めてください。最初の計算と、特殊算の一行問題、途中経過を見る問題で、テスト全体の約60%を占めます。経過、図形、グラフなどの応用問題も大切ですが、それ以上に基礎的な部分に目を向けてほしいと思います。また、問題をきちんと読み、立式できるように練習しましょう。解法の経過を書く問題は、どのように考え、答えを導き出したのかを確認するためのものなので、考えを省略することなく、丁寧に書くことを意識すれば、正解にたどり着きます。図形問題については、円周率3.14などの小数を用いた計算で受験生間に差がつく傾向があります。グラフ問題については、分かつたところから数値を書き入れるようにし、場合によっては自分で理解しやすくするために、与えられたグラフ以外に他の図などを描いたりすると良いでしょう。

# 2022年度入試 算数 問題別 正答率

- ①…正答率80%以上
- ②…正答率80～50%
- ③…正答率50～20%
- ④…正答率20%以下
- ⑤…合否の正答率の差が大きい問題

※設問ごとの配点が異なるため、平均点と正答率は異なります。

## 推薦入試

## 第1回入試

## 第2回入試

設問		①	②	③	④	⑤
1	1		○			
	2		○			
	3		○			◎
2	1		○			
	2		○			
	3		○			
	4		○			
	5		○			
	6			○		
3	1	ア	○			
		イ	○			
		ウ	○			
		エ	○			
		オ		○		
	2		○			
4	1		○			
	2			○		
	3			○		◎
5	1		○			◎
	2			○		◎
	3			○		◎
	4				○	

設問		①	②	③	④	⑤
1	1	○				
	2	○				
	3	○				
2	1			○		
	2		○			
	3	○				
	4		○			
	5		○			
	6			○		◎
3	1	ア	○			
		イ	○			
		ウ	○			
		エ	○			
		オ	○			
	2	○				
4	1		○			
	2			○		◎
	3		○			◎
5	1	○				
	2		○			◎
	3			○		◎
	4			○		

設問		①	②	③	④	⑤
1	1	○				
	2	○				
	3	○				
2	1		○			
	2	○				
	3	○				
	4			○		◎
	5			○		◎
	6				○	
3	1	ア	○			
		イ	○			
		ウ	○			◎
		エ	○			
		オ			○	
	2	○				
4	1		○			
	2			○		◎
	3	○				
5	1		○			
	2			○		◎
	3				○	
	4				○	

大問別	1	66.9%
	2	61.8%
	3	65.2%
	4	35.5%
	5	37.7%
総合	55.4%	

大問別	1	83.8%
	2	64.2%
	3	92.8%
	4	56.0%
	5	50.5%
総合	71.1%	

大問別	1	86.1%
	2	56.5%
	3	67.7%
	4	69.4%
	5	25.7%
総合	59.7%	

## < 社会 >

### 1. 2022年度の問題分析

#### ①推薦入試

社会と理科合わせて 50 分、配点は各 50 点満点です。各問のテーマは直前の説明会で伝えました。

【地理】日本地図に示した場所について、気候風土や産業などについて多岐に分かれた問題を出題しました。

【歴史】日本と外国との交流の歴史について、政治史や外交史などを出題しました。

【公民】日本の裁判について、日本国憲法にからめて、法改正や選挙制度などを出題しました。総じて、正確に語句を書けるかどうかで、大きく差がついています。また、単純に語句を答えるにしても、間違えている人は、問題文をよく読んで何を答えればよいのかを判断する力が低いようです。

#### ②第1回入試

第1回・第2回入試ともに、30 分間で配点は 60 点満点です。

【地理】東京オリンピックの聖火リレーが計画された都道府県と、走行ルートに関係があることについて出題しました。

【歴史】土地と税について出題しました。その中で、政治や経済、文化にからめて出題でした。また、指定された語句を用いて、記述の問題もありました。

【公民】政治のしくみについての問題と、インターネットについての問題を日本国憲法や法律にからめて出題しました。

#### ③第2回入試

第2回入試は、テーマを事前に公開しません。

【地理】日本の稲作にからめて、気候風土や自然災害などを問う問題を出しました。

【歴史】千葉県歴史から、日本全体の歴史の政治や経済、文化、外交について問う問題を出題しました。

【公民】日本の行政機関について、出題しました。

### 2. 2023年度入試の傾向と対策

推薦入試、第1回・第2回のいずれの入試も「地理」「歴史」「公民」の3つの分野から出題します。推薦入試は地理・歴史合わせて 35 点前後、公民は 15 点前後の予定です。第1回・第2回入試は地理・歴史がそれぞれで 20～25 点、公民は 15 点前後の予定です。大問と出題分野はおおよそ対応しますが、昨年の出題を見ていただいても分かるように、あえて分野横断的な事項を問うこともあります。このような出題は、積極的に行っていきたいと思います。また、分野を問わず、時事問題的要素を含む出題も行います。

推薦入試に関しては、理科と合わせて 50 分という短い時間で受験していただいております。時間配分に気をつけてください。

難易度については、第1回・第2回に比べて、推薦入試は基礎的な問題を多く出題します。また、いずれの入試でも簡単に説明してもらって論述問題を出題することがあります。問いに対する答えを的確に文章で表現できるように練習しておいてください。

なお、地名・人名・事件名などの用語を答える場合は、必ず漢字で解答してください。誤字は言うまでもなく、ひらがなも原則として得点にはなりません。そのため普段からきちんと漢字で書く習慣を身につけてください。

例年、ただ知識を問う問題や、説明会で解説したテーマそのままの問題については正答率が高く、ここは合格のためには落とせない部分となります。また、どの入試でも時事問題に関する出題の正答率が高く、よくチェックしていることがうかがえました。差がつくのは、時代や出来事についての理解を問う問題(さらにそれを説明する記述問題)、表・グラフ・資料を読み解く問題、問題文をよく読み「何を聞かれているのか」把握する問題、時代の並び替え問題、歴史分野での日本の国際関係に関わる問題、そして漢字の正確さです。こういった問題をどれだけ解くことができるかが、合否を分けます。特に、漢字をきちんと書ける人とそうでない人がはっきりと分かれるようになってきました。漢字を正確に書く人は、その他の問題の正答率も高く、漢字が不正確な人は、その他の問題も解けていません。丁寧に学習する姿勢が、それだけ重要だということです。

# 2022年度入試 社会 問題別 正答率

- ①…正答率80%以上
- ②…正答率80～50%
- ③…正答率50～20%
- ④…正答率20%以下
- ⑤…合否の正答率の差が大きい問題

※設問ごとの配点異なるため、平均点と正答率は異なります。

## 推薦入試

設問		①	②	③	④	⑤	
1	1			○			
	2		○				
	3	①		○			
		②		○			
		③			○		
	4				○		
	5		○				
	6			○		◎	
	7		○				
	8	B		○			
C				○			
9		○					
2	1			○			
	2		○				
	3		○				
	4		○			◎	
	5			○			
	6	○					
	7				○		
	8		○				
	9		○				
	10			○			
	11			○			
3	1	①		○			
		②			○	◎	
	2	①			○		
		②			○		
	3		○				
	4	①		○			◎
		②		○			◎
5			○				
6		○					

大問別	1	51.4%
	2	46.6%
	3	51.0%
総合	49.7%	

設問		①	②	③	④	⑤	
1	1			○			
	2	○					
	3	○					
	4			○			
	5			○			
	6		○				
	7		○				
	8		○				
	9	○					
	10		○				
	11		○				
	12				○		
2	1	あ	○				
		い		○			
		う		○		◎	
		え		○			
		お			○		
		か	○				
	2		○				
	3	○					
	4		○				
	5		○				
	6	○					
7		○			◎		
8		○			◎		
9			○				
10		○					
11		○					
3	1	○					
	2		○				
	3	○					
	4	①	○				
4	1	①				◎	
		②				◎	
	2		○				
	3		○				
	3			○			
	4	①		○			
		②				○	

大問別	1	63.7%
	2	68.6%
	3	72.8%
	4	54.8%
総合	65.8%	

## 第2回入試

設問		①	②	③	④	⑤	
1	1			○			
	2			○			
	3		○				
	4			○			
	5			○		◎	
	6			○			
	7		○				
	8			○			
	9		○				
	10		○				
	11	○					
	12			○			
2	1		○				
	2		○			◎	
	3				○		
	4			○			
	5			○			
	6		○				
	7		○			◎	
	8			○			
	9		○				
	10	I			○		
		II			○		
	11			○			
	12		○				
	13			○			
	14				○		
15			○				
3	1	あ		○			
		い		○			
		う		○			
	2	①	i	○			
			ii		○		◎
			iii	○			
			iv		○		◎
	②			○			
		③			○		
	3			○			
	4	○					
5				○			

大問別	1	48.3%
	2	45.1%
	3	55.0%
総合	49.0%	

## < 理科 >

### 1. 2022年度の問題分析

#### ①推薦入試

問題数は大問4問です(50点満点、総問題数は25問)。大問1は小問集合で、生物・化学・地学・物理の順に各2問ずつ全8問を出題しました。いずれも基本的な知識を答える問題でしたが、化学分野の2問と地学分野の『星座』に関する問題の正答率が高くなりましたが、他の問題については、正答率が50%を超えるものではありませんでした。大問2の生物分野は「植物」に関する内容で、『気孔』に関する問題の正答率が低くなり、『蒸散量』に関する計算問題について、合否の正答率の差が大きくなりました。大問3は地学分野の「月」に関する内容で、『皆既日食後の月の形』に関する問題の正答率が低くなり、『月の見え方』に関する問題について、合否の正答率の差が大きくなりました。大問4は物理分野の「磁石」に関する内容で、『ぬい針の磁極』に関する問題と『振り子と棒磁石を使った電磁誘導』の問題の正答率が低くなり、『電磁誘導の基本的な考え方』に関する問題について、合否の正答率の差が大きくなりました。

#### ②第1回入試

出題分野は昨年と同様で問題数は大問5問です(60点満点、総問題数は30問)。大問1は推薦入試と同様の小問集合で、生物・化学・地学・物理分野から出題しました。生物分野の『種子をつくらない植物』、化学分野の『酸化物の計算』、物理分野の『手回し発電機』に関する問題の正答率が低くなりました。大問2の生物分野は「動物」に関する内容で、『ミツバチの8の字ダンス』に関する出題でした。『ミツバチと同じような生物』を答える問題以外は、正答率は比較的低く、受験生には難しく感じたようです。大問3の化学分野は「水溶液」に関する内容で、『水素の発生法をすべて答える問題』と計算問題2問の正答率が低くなり、最初の計算問題については、合否の正答率の差が大きくなりました。大問4の地学分野は「気象」に関する内容で、全体的に正答率は高くなりました。大問5の物理分野は「密度」に関する内容で、どの問題の正答率も高めであったものの、計算問題の多くは合否の正答率の差が大きくなりました。

#### ③第2回入試

出題形式は第1回(60点満点)と同様で、総問題数31問でした。大問1は他の試験と同様の小問集合を出題しました。地学分野の2問と、物理分野の『回路』の問題は正答率が低くなり、化学分野の2問については、正答率は高めであったものの、合否の正答率の差が大きくなりました。大問2の生物分野は、「ヒトの眼」に関する内容で、問題文から考察する問題が含まれていたため、正答率が低くなりました。大問3の化学分野は「酸性とアルカリ性の水溶液」に関する内容で、全体的に正答率が高くなりましたが、『中和時の塩』を答える問題は完答を要する問題となっていたため、正答率が低くなりました。大問4の地学分野は「様々な内容の正誤問題」で、『太陽の南中高度』と『フェーン現象』に関する問題の正答率が低くなり、両問ともに合否の正答率の差が大きくなりました。大問5の物理分野は「滑車」に関する内容で、正答率が低めの問題が多く、受験生には難しく感じられたようです。第2回の物理分野は、推薦、第1回と比較しても、全大問の中で、最も正答率が低くなりました。

### 2. 2023年度入試の傾向と対策

3回の試験ともに、例年通りの傾向で作成予定です。推薦入試は大問が4問で、小問集合・生物・化学・物理分野となります。総問題数は25問前後で、易しいものからやや難しいものまで出題する予定です。

第1回・第2回は大問が5問で、小問集合と生物・化学・地学・物理の4分野となります。総問題数は30問前後で、各回とも基礎的な知識を問う問題、計算問題、グラフや図から規則性を読み取る問題を出題する予定です。

対策としては、理科全般にわたる基礎的な知識問題を必ず出題しますので、基礎学力をしっかりと身につけて下さい。また、問題文で与えられた条件から考察する問題、簡単に説明する問題など、知識を活用しながら答えを導く問題も出題する予定です。身につけた基礎学力の活用の仕方を考えながら問題を解くことを大切にして取り組みましょう。

# 2022年度入試 理科 問題別 正答率

- ①…正答率80%以上
- ②…正答率80～50%
- ③…正答率50～20%
- ④…正答率20%以下
- ⑤…合否の正答率の差が大きい問題

※設問ごとの配点異なるため、平均点と正答率は異なります。

## 推薦入試

設問		①	②	③	④	⑤	
1	1			○			
	2			○			
	3	○					
	4	○					
	5			○			
	6	○					
	7			○			
	8			○			
2	1	○					
	2			○			
	3	○					
	4	①	○				
		②		○			◎
3	1		○				
	2	○					
	3		○			◎	
	4		○			◎	
	5	i		○			◎
		ii			○		
4	1		○				
	2			○			
	3		○				
	4	○					
	5		○			◎	
	6			○			

大問別	1	59.9%
	2	74.3%
	3	64.9%
	4	61.5%
総合	64.4%	

## 第1回入試

設問		①	②	③	④	⑤
1	1		○			
	2			○		
	3		○			
	4			○		
	5		○			
	6	○				
	7			○		
	8		○			
2	1	○				
	2			○		
	3			○		
	4			○		
	5		○			◎
3	1	○				
	2	○				
	3			○		
	4	○				
	5			○		◎
	6				○	
4	1	気温	○			
		地温	○			
		湿度	○			
	2	○				
	3			○		
	4		○			
	5		○			◎
5	1		○			◎
	2		○			
	3		○			◎
	4		○			◎
	5			○		

大問別	1	51.7%
	2	53.1%
	3	62.7%
	4	78.9%
	5	59.9%
総合	61.3%	

## 第2回入試

設問		①	②	③	④	⑤	
1	1	○					
	2	○					
	3		○			◎	
	4		○			◎	
	5			○			
	6			○			
	7		○				
	8			○			
2	1		○				
	2			○			
	3			○			
	4	i			○		
ii			○				
3	1	○					
	2		○				
	3	○					
	4		○				
	5				○		
4	1		○				
	2		○				
	3			○		◎	
	4		○				
	5		○				
	6			○		◎	
5	1			○			
	2			○		◎	
	3	X		○			
		Y		○			
	4	①				○	
		②				○	
	5				○		

大問別	1	55.4%
	2	51.9%
	3	63.9%
	4	56.9%
	5	31.2%
総合	51.0%	

Memo

Memo

